

始筆

No. 1

令和5年5月15日

京都市小学校書写教育研究会

昨年度に引き続き、京都市小学校書写教育研究会から書写の学習で使える実践例や展覧会関係について紹介します。機関紙「始筆」をヒントにして、児童の日常に生かす『書字力』をいっしょに育てていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

今回の「始筆」では、左記の三点についてお伝えします。

◎京都市児童硬筆書写作品展について

(硬筆学習指導の観点と評価)

◎日常の毛筆書写学習の進め方

◎各教科学習でも活用できるアイデア

【京都市児童硬筆書写作品展について】

「京都市児童硬筆書写作品展」の要項を六月上旬に各校に配布する予定です。より有意義な取組となるよう、ぜひ、京都市小学校書写教育研究会のホームページ内「硬筆学習指導のポイント動画」もご覧ください。その動画では、指導の観点や評価の仕方を分かりやすく解説しています。

《一年生》ひらがなの学習

字形、点画の終わり(終筆)の「とめ」や「はね」

《二年生》カタカナの学習

画の方向(ソンの二画目、シツの三画目)、
画の書き方(ヒの一画目など)

《三年生》文字の大きさ、行の中心

《四・五・六年生》文字の大きさ、中心、配列



- ・漢字を大きめ、ひらがなは小さめに書く。
- ・一文字の一文字の文字の中心を意識して書く。
- ・行の中心を確かめる。

・接筆(「口」という漢字の場合：一画目が三画目よりも下方向に出る、二画目のための部分より三画目の横画が出るなど)

・字形(「な」の場合：三画目が、一画目の横画よりも低い位置に書かれているなど)

☆教職員研修支援 SMART PORTAL ↓京都市総合教育センター

↓教育研究団体 ↓小学校 ↓京都市小学校書写教育研究会

<https://skc-cms.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/>

※本ホームページ内には、他にも、硬筆学習指導で有効な道具等も紹介しています。

【日常の毛筆書写学習の進め方】

三年生の教科書の一ページに「学習の進め方」が示されています。進め方を知ること、学習過程が分かり、自立解決していく力が身に付きます。また、学習に見通しをもって安心して学んでいくことができます。

☆準備をしよう。

持ち物にはすべて名前を書くこと、準備図や準備の仕方の説明を定着するまで掲示します。

① 学習のめあてを確かめよう。

② 学習の始めに、硬筆や毛筆で試し書きをしよう。

教科書の各単元のページの硬筆で書く欄に試し書きをします。毛筆でも、教科書を見ずに試し書きします。書くときは、正しい姿勢・持ち方、筆順を意識させてから書き始めます。

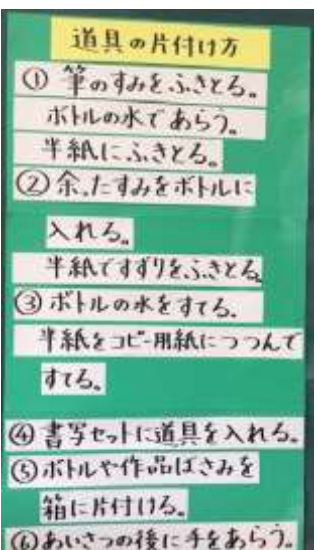
③ 試し書きと教科書の文字を比べ、気を付けることを見つけよう。

赤鉛筆を用意します。教科書の教材文字と自分の試し書きをよく見比べます。そして、直すところを赤鉛筆でチェックします。チェックの仕方は、線を引いたり、言葉を入れたり、矢印を入れたり、自分で分かりやすく工夫し、書き込んでいきます。自分で分かるように書きこんでいけば、よしとします。

④ 気を付けることを確かめて、練習しよう。

自分のめあてが明確になったら、練習開始です。

★昨年度の「始筆」でも紹介しましたが、「ICTをツールとして有効に活用していくことが必要となってきます。互いの書写作品を批評するときのロイノート活用などをしてくださっている先生方もおられます。ぜひ、皆さん、試してみてください。



道具の片付け方を黒板に掲示しておく、次に何を片付けるのが分かり、支援が必要な児童も一人で片付けができるようになりまし

【各教科学習でも活用できるアイデア】

○良い姿勢の合言葉を唱える。

教科書に「良い姿勢の合言葉」が載っています。良い姿勢の絵や写真を教室に掲示し、文字を書くときなどに声かけし、意識付けるようにしましょう。児童といっしょに考えた合言葉でもいいですね。

○文字を分析して見る力を付けるために言葉かけをする。

日頃の新出漢字などの学習から、文字の筆順や「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」「そり」といった基本点画を意識的に着目した声かけをすることが大切です。

この機関紙「始筆」の書体は、教科書体です。児童が目にする文字は、できるだけ正しい書体にしましょう。

《今年度の主な予定》

- ① 京都市児童硬筆書写作品展 (校内掲示) 8月
- ② 姉妹都市交歓作品展 (学校指導課主催) 9月
作品提出 ↓京都市美術館別館にて展示
- ③ 書き初め展 (入選作品校内掲示) 作品提出 ↓
令和6年1月12日(土) 特選作品と各支部

育成学級の点数を総合教育センターにて展示
※(2)姉妹都市交歓作品展と(3)書き初め展については、支部代表幹事の先生方に展示作業・搬出作業を毎年お願いしています。その際、作品の見方などいっしょに学ぶ機会を設けます。どうぞご予定ください。